

島田市役所周辺整備基本構想検討委員会 第5回会議 議事概要

1 日時 平成30年5月18日（金） 午後6時30分～午後9時

2 場所 島田市役所本庁舎4階 第3委員会室

3 出席者

(1) 委員

海道委員長、森澤副委員長、荒井委員、石川（春）委員、伊藤（治）委員、伊藤（歩）委員、
杵塚委員、兒玉委員、佐野委員、高橋委員、中林委員

（13人中11人出席）

(2) 事務局

行政経営部資産活用課 鈴木課長、高木課長補佐、岩本係長、小柳津主事、福田書記

4 概要

(1) 開会

(2) 報告事項

- ・市民アンケートの中間報告について

委員からの質問・意見は以下のとおり（○：質問・意見 →：事務局からの回答）

- アンケートの結果からは、既存の文化施設を大いに活用しようということが感じられる。
- 数が多いからという論理だけでなく、少数意見の扱いを我々がどう捉えるかが重要である。
- 財政の状況や高齢化等、市の現状を市民がよく知らない状況でのアンケートであるので、それを知っていたら結果が変わってくるかもしれない。そういうことも含めて判断材料にしたらいと思う。
- かつての市民会館に近い規模のホールを新たに整備するという項目の結果に関しては、旧市民会館を知っている60代、70代の回答率が高いということが影響していると思う。

(3) 協議事項

- ・文化施設のあり方について

委員からの質問・意見は以下のとおり（○：質問・意見 →：事務局からの回答）

- おおるりの設備を更新しつつ、夢づくりやチャリムと役割分担するという案が良いと思う。
- おおるりと新文化施設の両立は難しいと思う。おおるり、夢づくり、チャリムは残すにしてもそれぞれの特色を考慮して棲み分けをしていく必要がある。
- 整備費用や管理運営費用の面をみても既存施設を残す案が良いと思う。そのまま残すのではなく、改修・補修・機器の入替えは必要だと思う。
- 活動主体の意志が強ければどこでもクリエイティブなものができると思う。それを導くヒ

ト的なもの、コト的なものの方が重要である。ホールを作ればクリエイティブなものができるということではない。

- 市内に30分以内のところに文化施設が3つある。もっと広域的にみると焼津の文化会館、大井川町にもホールがあり、30分以内のところに5つある。防災や金融も広域的な考えになってきている中で、文化施設についても広域で考えて本当に必要なかどうか考えてもいいと思う。
- おおるりに入っている行政機能を新庁舎に移動して、その空いたスペースをリノベーションしておおるりの劇場機能をより充実させるという考え方があってもいい。
- 夢づくりやチャリムは地域コミュニティ施設であり、今回の検討に伴い廃止するという方向にもっていく話ではないと思う。おおるりのホール機能は構造的に広げるのは難しく、おおるりでしてきたことを引き継いで、新しい文化施設を考えていけば良いと思う。
- 新文化施設を建設するなら、おおるりのホールだけを廃止するのも案だと思う。
- ソフト面の整理を十分した上で、「コミュニティセンター」なのか「劇場」なのか、文化を発信する施設としてどういうものが必要かを考えるべきである。※複数意見
- 夢づくり、チャリムは残していくべきである。新文化施設については財政面から厳しいのでないかと思う。ただ、市側に新文化施設を作って、運営していくという覚悟があるのであればそういう選択もあると思う。

(4) その他

次回の委員会開催日は6月4日（月）とすることとした。

(5) 閉会